

令和6年4月23日

於・日本学術会議講堂

第191回総会速記録

令和6年4月23日（2日目）

日本学術会議

目 次

1、開会 午後1時31分	2
1、配付資料、留意事項説明	2
1、日本学術会議の在り方について	3
1、アクションプランについて	2 3
1、休憩	2 3
1、再開 午後2時20分	2 3
1、散会 午後3時35分	4 4

[開会（午後 1 時 3 1 分）]

○光石衛会長 これより、日本学術会議第 191 回総会の 2 日目を開会いたします。

[配付資料、留意事項説明]

○光石衛会長 議事に入る前に、追加配付資料及び留意事項について事務局から説明をいたします。お願いいたします。

○企画課長 事務局でございます。

まず配付資料の確認をさせていただきます。本日、皆様に資料を追加で送付させていただきました。追加資料は、資料 7 「日本学術会議の法人化に向けて（令和 5 年 12 月 22 日）」に対する声明（案）～世界に貢献するナショナル・アカデミーであり続けるために～」です。また、紙で御入り用の方は、挙手いただければ事務局職員がお渡しさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

続いて、留意事項について申し上げます。昨日の繰り返しになりますが、改めて御案内をさせていただきます。

本日はオンラインにより参加されている会員の方もおられます。御発言の際には冒頭にお名前と所属部をおっしゃっていただき、はっきり、ゆっくり御発言をいただきますようお願いいたします。

会場にて御参加いただいている皆様は、発言の御希望がある場合は挙手をいただくか、机上の発言希望票に所属部とお名前を御記入の上、事務局職員にお渡しください。御発言の際には卓上のマイクのスイッチを入れていただき、できるだけマイクに近づいて大きな声で御発言をいただきますようお願いいたします。発言後はマイクのスイッチを切ってくださいほか、ハウリング防止のためオンライン出席用の Z o o m には接続されませんようお願いいたします。

オンラインにて御参加いただいている皆様、入室に当たり本人確認に御協力をいただきありがとうございました。会議中は、カメラは ON、マイクは OFF にしていただきますようお願いいたします。また、発言の御希望がある場合は挙手機能またはチャット機能を利用して意思表示していただき、指名を受けましたらマイクを ON にして御発言ください。

なお、チャット機能を使用される際は、ホストへのダイレクトチャットではなく全体チャットで御連絡くださいますようお願いいたします。

なお、総会の傍聴を希望される方や報道の方には、総会の様子を動画でも配信しておりますので御承知おきください。傍聴されている方におかれましては、本日の資料は日本学術会議のホームページに掲載しておりますので御参照ください。追加資料につきましても、準備ができ次第ホームページに掲載させていただく予定です。

連絡事項は以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

○光石衛会長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。議事進行は、昨日に引き続き日比谷副会長にお願いします。

○日比谷潤子副会長 それでは、議事に入ります。まず、本日の会場とオンラインの両方を合わせた出席会員は 141 名で、定足数に達しております。

[日本学術会議の在り方について]

○日比谷潤子副会長 それでは、昨日に引き続き、日本学術会議の在り方、それから第 26 期日本学術会議アクションプランについてを議題といたしますが、最初はまず、ここが昨日に引き続きになりますけれども、在り方についてを討議したいと思います。会長から御発言があると理解しております。

○光石衛会長 昨日、午後のセッションにおきまして、日本学術会議の在り方について皆様方から大変活発な御意見、また議論をいただきまして、ありがとうございます。その意見をまとめて、昨日の段階ですが、お手元に配付した資料 7 を発出してはどうかということで、案という形でまとめています。

ただ、本日午前中に各部で意見の交換を行っていると思います。私は第三部に出席していて、非常に活発な意見の交換が行われたと思っています。例えば、意思の表出ということで声明を発出するというのであればこういうものでどうかということでまとめています。ただし、今朝の議論を反映したものではないので、大きくは変わらないのではないかと認識はありますが、これを見ていただき、そもそもこれを発出して良いかどうか、それからここはこう変えた方が良いのではないかとというような御意見をいただければと思っています。

まずは日比谷副会長からこれに書いてある事項について説明を一度いたしまして、その後には皆様から御意見を伺えればと思います。

では、日比谷副会長、お願いいたします。

○日比谷潤子副会長 それでは、お手元にあると思いますけれども、メールで送られていることと思いますが、画面にも映っておりますので、声明の案について御説明をいたします。

まずタイトルですが、昨日、私がこれまでの経緯の説明をいたしましたときに内閣府特命担当大臣決定の内容についてお話ししましたが、「日本学術会議の法人化に向けて（令和 5 年 12 月 22 日）」というのはその内閣府特命担当大臣決定の文書のことです。それに対す

る声明（案）、副題として「～世界に貢献するナショナル・アカデミーであり続けるために～」とつけております。

まず、最初の段落は、現代社会の様々な危機、学術がその解決に向けて果たすべき役割がますます大きくなっているということ述べ、何回もお話ししておりますけれども、2021年4月に発出しました「より良い役割発揮」、それに沿って精力的に取り組んできているということ述べております。

2段落目は、今お話ししました内閣府特命担当大臣決定が決まった、そして最近のことですけれども有識者懇談会の下に二つのワーキング・グループが設置された、これをこの後は「検討WG」と呼んでいます。そして、4月15日に、うち一つの組織・制度ワーキング・グループの第1回会合が開催されたことを述べています。

その次のところですが、これは会長メッセージにも入れてあることですが、いかなる改革も学術の発展に真に資するものであるべきという観点、これを堅持する、そこで内閣府の二つのワーキング・グループにおいて引き続き議論を深めるとともに、学術会議がその役割を十分に発揮できるような検討が行われるよう、議論に主体的に参加することにしたという立場を表明しています。

その役割を果たすためには5要件の制度的保障が不可欠で、5要件というのはどういうものかを書きまして、そして昨年12月の総会で決定した声明に触れ、そこで主要な懸念点も指摘しました。しかしながら、その後9日に声明を出して、22日に決定された内閣府特命担当大臣決定では懸念点が解消されたとは言えない状況です。そこで、改めて今後の具体的な検討で満たされる必要がある点を三つにまとめて述べています。

最初は、改革は、学術会議の「より良い役割発揮」につながるものでなければならない。勸告機能も含む実質的機能を確保するとともに、国家財政支出を中心とした安定した財政基盤の保証がされるべきである。

2番目は、組織・制度についてですが、政府からの自律性・独立性の担保。また、迅速で柔軟な活動を確保するために透明性を堅持しつつ、学術会議の目的、機能、規模などに比例したガバナンス制度を維持すべきであると、すなわち、学術会議として、学術の性質を踏まえたガバナンスが重要であると考えているということ述べています。

3番目は、会員選考ですが、自律的・独立的に行い、その方法は学術会議が決定すべき事項であること、それから高度な専門性を備えた優れた科学者を選考するために、現在のコ・オプテーション方式、それから会員による会長の選出が不可欠だからとその理由を述べ、次期の会員選考についても同様であると結んでいます。

最後の段落は、これは「より良い役割発揮」で覚えていらっしゃる方も多いと思いますが、そこから最初の3行ですかね、また再び書いておまして、最後に学術会議の75年にわたる歴史が途切れることなく、そして役割を十分に発揮できるよう主体的に対話を進めつつ、政府との継続的かつ建設的な協議を求める所存であると結んでおります。

文書の説明は以上で、これからいろいろな御意見を伺いたいと思いますので、私は席に

戻ります。

会長、何か補足なさることはありますか。よろしいですか。

では、昨日同様ですけれども、挙手あるいは質問票があると思いますので、質問票をスタッフに渡していただければ順番に指名をいたします。

いかがでしょうか。

ちょっと読んでいただく時間があつたほうがいいかもしれません。

ごめんなさい、どうぞ。広田先生ですかね。

○**広田照幸会員** 一部の広田です。

基本的には結構だと思うんですが、第1にのところで、「安定した財政基盤が保証されるべきである」という、その前に「十分な」を入れてほしいと思います。今日午前中の部会での今年度の活動計画でもお金がないというのがよく分かったので、ないまま安定したらまずいかなと思います。

○**日比谷潤子副会長** ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○**西岡加名恵会員** 関連した意見なんですけれども、参考資料として具体的に今どういう財政状況なのかを入れていただけるといいなと思っていまして、現に今動いている分科会がこれだけリストとしてあって、それぞれ本当に一つ一つ大事な課題に私たちは取り組んでいると思うんですけれども、もう具体的に言えば1回分の分科会の開催費用しか賄えない、でも議論を深めるにはせめて年3回は必要といったぐらいの一般の方にも分かるぐらいの具体性を持って、いかに財政が厳しいかの資料を添付していただけるとありがたいなと思います。

○**日比谷潤子副会長** 会長、お願いします。

○**光石衛会長** この声明にそれを添付するかどうかということはあるんですが、改めて説明する方がよければ、多分、有識者懇談会の2回目か3回目に財政状況についてお示ししています。事務局、すぐ出ますでしょうか。グラフがあるのでそれをお示しするのが良いと思います。

○**西岡加名恵会員** よろしいですか。

グラフを見ても一般の人には分からないと思います。正直、グラフだけを見たらこんなに総額の金額があるんだなと、やっぱり一般の人から見て日本学術会議がどういうふうに見えるかということ、お金のある恵まれた研究者たちがすごく高い日当をもらって活動

をしているんだろうなというふうにしか多分見えていないので、もうちょっとリアルが伝わる工夫をしたほうがいいんじゃないかなということも改めて会員になって思いました。

○光石衛会長 例えば、何か脚注みたいな感じか、何か文章で書くという、そういうイメージで良いのでしょうか。理系の人間はグラフを見るのが一番早いのですが。

○西岡加名恵会員 ぜひそこら辺を広報委員会で御検討をいただければありがたいです。

○光石衛会長 分かりました。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 ほかにいかがでしょうか。
どうぞ。後ろの。

○美馬のゆり会員 今の二人と同じ委員会からの発言ですが、これだけ重要なテーマを議論しているんだという、お金の問題もそうかもしれないんですけども、国民に必要とされている、あるいはこういう議題について我々は積極的に分野を超えて議論しているという、例えば分科会のテーマを列挙するだけでも参考資料として身近に感じていただけるんじゃないかなと思います。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

予算の総額の議論はとても大切で、この文書の2ページ目の上から2行目に「目的、機能、規模等に比例したガバナンス制度を維持すべきである」と書いています。これは理系の人間から見るとリニアに何か変わっているというように見えますが、法学の世界に比例原則というのがあるようで、例えば「規模等に応じたコンパクトで小回りの利くような」と意味で、私はそう言い換える方が良いかもしれないので、自分では言い換えて話をしています。国立大学の大きいところの予算規模と、学術会議の予算規模とでは二桁、三桁違うので、この予算規模というのは極めて重要な点かと思います。ありがとうございます。そういうことがもう少し分かるようにする方が良いということですよ。

○日比谷潤子副会長 どうぞ。磯副会長、お願いします。

○磯博康副会長 財政状況が今どのぐらいかというグラフがありますが、実際、今、御質問があった、それぞれの分科会で3回対面会議を開催するときどのぐらいお金がかかるかは試算できると思います。ただ、それは全体予算の中でそれほど大きな額ではなく、本来の我々の機能をしっかり発揮するためにはもっと大きな予算が必要です。会議費を個別

に出してしまうと、かえってこんな予算でいいのかというふうになりますのでその点は慎重に考えたいと思います。

以上です。

○日比谷潤子副会長 それではお願いします。

ごめんなさい。今ちょっと忘れていたんですが、所属の部は分かりますが、お名前を最初におっしゃって御意見をお願いいたします。

どうぞ。

○小畑郁会員 第一部の小畑と申します。

そういうふうに議論が流れてきたので、少しこの声明に対する直接の議論というよりは、全体、今、日本学術会議の在り方ということが問題になっているときに、どういう発出をどの層に向けて、誰に向かってやるべきなのかということが重要なのではないかと思うんですよね。執行部の方々が有識者との対応というのに苦勞されているということは非常によく分かるんですけども、一方で、法人化というところにかじを切られたときに、やっぱり国の機関なのだから独立性を担保するためには国の機関よりも法人化のほうがいいですよという、これは我々としては何度も論破してきたつमりの議論が割と社会的には浸透しているように思うんですよね。

だから、そういう雰囲気の中で、細かいその制度、議論について先日出た資料には赤字でいろいろコメントがついていますけども、結局あれが条件闘争的なニュアンスを持って受け取られる雰囲気があると思うんです。だから、そうではなくて、やっぱり国の機関であっても法人化ということ自体が、国の機関であったら独立的な活動はできないんだという議論を前提にしているわけですよ。そこをやっぱり打ち破るような意見の発出というのをもうちょっと社会的にやるべきじゃないかと思うんです。

昨日の総会の御発言で、今の政権との関係だけで議論しては駄目なんじゃないかというふうに思うんですけども、これは今の政権から見ると、今こういう法人化に抵抗しても無駄だという雰囲気が強いと思うんですけども、今の政権が未来永劫続く保証はないし潰れる可能性だってあるわけですよ。世論調査をすると、政権交代をしてほしいという意見が多数になってきているという状態になっているわけですよ。

そうすると我々としては次の政権のときに、この問題を議論したときに我々としてきちんとしたスタンスを取りましたということが非常に重要で、国の機関だったら独立の行動ができないということは、やっぱりきちんと社会に向けてそうではないんだということをはっきりさせる必要があるんじゃないかというふうに私自身は思います。

だから、こういう声明を発出していただくということは非常に重要なんですけど、同時に一般社会に向けて割と俗説というのは結構あるので、きちんとその点をクリアにする文書を出すということも考えていただきたいというふうに思います。執行部の方の御苦勞、

非常に感謝申し上げますけれども、その点をちょっと検討いただければというふうに思っております。

○光石衛会長 ありがとうございます。

最後におっしゃっていただいたように、一つの文書で全部をカバーすることは難しいと思いますので、これはこれでお認めいただければと思います。色々な方々に向けて様々な出し方をすることは極めて重要で、広報になるかと思いますが、広報に丸投げするという意味ではなく、注意をしてやっていきたいと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 票をいただいております、第三部の杉山会員、お願いします。

○杉山直会員 二つあるんですけど、三つの要求のところが一番重要だと思ったので、2ページ目の頭のところで、先ほど光石会長がおっしゃったとおり、これを法学者が読むんじゃなくて一般の国民が読むとすると、「日本学術会議の目的に比例したガバナンス制度」は少なくとも私には通じない言葉なので、先ほど光石会長がおっしゃったほうが世の中には通じるかなと思います。学術的に正しいとかそういうことではなくて、やはりそちらのほうが私は適切だと思います。

その次に「第3に」のところ、会員選考等については自律的・独立的に行うのはすばらしいんですけども、ここにやはり透明性というようなものをしっかり担保しつつというようなことを、前の文章とも一緒になってしまうのですが、入れておいたほうがいいのではないかと思います。これはかなり世間の目が、我々が勝手に選んでいるんじゃないかというふうに見られていることもあるので、透明性はきちんと担保するというようなことを入れたらいかがでしょうか。

以上です。

○日比谷潤子副会長 ありがとうございます。

会長、いかがでしょうか。

○光石衛会長 ありがとうございます。

「比例した」を残すかどうかは執行部でも議論をしたいと思います。「透明性」は恐らく入れる方が良いと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 今、オンラインでどなたかいらっしゃいましたら、挙手機能を使ってお願いいたします。

それから、第一部の芳賀会員、お願いします。

○芳賀満会員 第一部の芳賀です。

この声明のキーワードとして、タイトルにもある「ナショナル・アカデミー」というのがあります。本文中では、3・4段落目の5要件の制度保障の対象である「ナショナル・アカデミー」としてだけ出ています。これらの「ナショナル・アカデミー」の用語で我々が訴えたい意味がよく分からない。つまり、政府側や一部の国民は、国益に反するとまで言わなくても、国益に沿っていないのが今の日本学術会議である、と批判するときに、我々はこの「ナショナル・アカデミー」の意味を慎重に扱って、かつ、我々の主張がよく伝わるように文言を考えないといけない。つまり「ナショナル」であることは我々はもちろん自覚しており国益を損ねるような意図はないけれども、一方で我々には、さらに別次元の学術とか、人類とか、地球とか、宇宙とか、そういう視野もあって、結局はそれが日本と世界の全体の役に立つんだというふうな意味での「ナショナル・アカデミー」であるべきではないでしょうか。以上です。

○光石衛会長 5要件に既に書いてありますが、5要件をもう一度確認しますと、学術的に国を代表する機関としての地位、そのための公的資格の付与、国家財政支出による安定した財政基盤、活動面での政府からの独立、会員選考における自律性・独立性です。このうちの1と2に関わることと思いますが、学術的に国を代表する機関としての地位、そのための公的資格の付与という、この二つをもってナショナル・アカデミーと呼ぶと私は理解をしています。

○芳賀満会員 ええ、私もそう理解して、我々、多分全員そうです。けれども一方で日本学術会議法前文には「科学者総意の下に・・・人類社会の福祉に貢献し」とあり、一方、現在政府側は日本学術会議は「ナショナル」のためになっていないのではないかと言いたいのだと思います。そういうときにもうちちょっと何かこの「ナショナル」の用語をうまく使えないかなと思いました。

私からは以上です。

○日比谷潤子副会長 それでは、一部の宇山会員、続いて一部の上東会員、お願いします。

まず宇山会員からお願いします。

○宇山智彦会員 第一部の宇山です。声明(案)の取りまとめ、ありがとうございました。

一連の議論を十分によく知っている人であればここに書かれていることの意味は分かるわけですが、そうでない人が読んで、学術会議が何を言いたいのかこれで通じるのかなというのがあります。

特にこれは、要は大臣決定に対する反論であるわけですが、その大臣決定のどの部分が

問題なのかということをもう少し具体的に書くべきではないか、中でも「第2に、組織・制度については」というところで、実際に問題にしているのは運営助言委員会とか、監事とかについての話であるはずなので、それをきちんと具体的に言及をして、それが政府からの自律性・独立性を毀損する可能性が高いということもはっきり書くべきではないでしょうか。先ほど小畑会員の御発言にもあったように、法人化イコール独立というふうに一般の人はイメージしがちなので、そうではなくて逆のことがされようとしているということを明確に書くべきではないかと思います。

それから、声明は声明として出すのがよいと思いますが、これだけで何かのインパクトを期待できるかというとなかなか難しい。昨日、多くの方が言ったようにやはり学術会議としての対案を出す必要があって、その対案というのは、法律の代案という意味と、それから日本の学術体制全体、昨日もC S T Iについてたくさん話題が出ましたけれども、C S T Iなども含めた学術体制全体についての学術会議の案というのをこれから出さないとどうにもならないのではないかと。昨日その対案をどこで話し合うのかについて、会長からワーキング・グループだというお話はありましたが、本当に対案を出すのかどうかということについては明言されなかったように思うので、対案を出しますということをごここで明確に約束していただけないかと思います。よろしくお願いします。

○光石衛会長 三つのことをおっしゃったと思いますが、もう少し具体的に書くようにということにつきましては、文言についてどのように入れるかということは幹事会で検討したいと思います。

それから、3番目と思いますが、対案については、法人化か否かということについての二者択一ではなくて、堅持すべきものは何か、譲れない点は何かということについてはこの声明をはじめ結構申し上げているところです。この合意をある程度この総会で取りたいということもあり、様々な意見があるということは承知しておりますが、どこを皆さんの共通点として言えるのかということがありますので、そこは堅持したいということです。例えば、在り方ワーキングで、在り方といっても学術会議のワーキングですが、そこを明確にして示していくということは是非やりたいと思っています。

それから、2番目は何でしたでしょうか。

○宇山智彦会員 いや、今のでお答えいただいたんですけども、その譲れないものは何なのかというのは結局政府案に対するリアクションとして言っていることで、それはもちろん必要なんですけれども、しかし結局それでは学術会議は変わりたくないんだというふうな逆に言いがかりをつけられてきた経緯があるので、だから明確な対案を出す必要があるというのが私を含め昨日発言した多くの方々に共通する意見だと思います。

このままもやもやした状態が続いて結局押し切られてしまうのではないかという意見も、昨日の総会でも多く聞きました。ですから、御苦勞をされているのはよく分かるんですけ

れども、このままのやり方だと執行部の信用に関わる、信任に関わる問題ではないか、深刻に考えていただく必要があるのではないかと思います。ぜひ対案の作成に取り組む体制をつくっていただきたいと思います。

○光石衛会長 ありがとうございます。

例えば、会員選考の仕方については学術会議から示していきたいと思っています。例えばの話です。

○日比谷潤子副会長 では、上東会員、お願いします。

○上東貴志会員 第一部の上東です。

引き続き5要件を要求し続けるという方向性だと思うんですけども、その方向性の是非はあるとして、「第3に」のところで「自律的・独立的に行い、その方法は日本学術会議が決定すべき事項である」というのは、これは5要件から逸脱していると思うんですね。選考方法に関する要件というのがありますけれども、その要件自体、選考方法自体を学術会議が決めるべきだというのは5要件の中に入っていない、入っているんだしたら私の認識が間違っていますけれども、誰が決めようが5要件が満たされればいいというスタンスにしないと、この辺は混乱すると思うので、ちょっと表現を変えていただければと思います。

○光石衛会長 5要件の最後は会員選考における自律性・独立性ですが、そのこととここに書いてあることが逸脱していますでしょうか。

○上東貴志会員 自律性と独立性が担保されれば、その担保する方法を学術会議が決定する必要がない。

○光石衛会長 いや、そこはもう一步踏み込んで、学術会議が決定すべきであるということとをさらに言っているというのが、ここで主張していることです。

○上東貴志会員 それが当初の5要件からさらに踏み込んでいるという意味で逸脱しているんじゃないかというふうに。

○光石衛会長 しかし、そこは主張していかないと、それこそ押し切られておしまいになるのではないのでしょうか。

○上東貴志会員 自分たちで決めるべきだというのは最も理解を得られない主張だと思います。

いますけれども。

○光石衛会長　そこが、いや、皆さんがもう誰か適当に決めてくれというので納得されるのであればそういうことでも良いかもしれないですが、恐らくそうではないのではないかと私は思っております。いかがでしょうか。

○上東貴志会員　ちょっとこのままだと逸脱しているように読めるので、表現を変えていただきたいという私の意見です。

　　以上です。

○光石衛会長　意見として承ります。

○日比谷潤子副会長　よろしいでしょうか。

　　そうでしたら、第三部の市川会員、お願いします。

○市川温子会員　既に言われていたら申し訳ないんですけど、言葉の問題で、途中のところに「日本学術会議は、いかなる改革も学術の発展に真に資するものであるべきという観点を」というのが、別に学術の発展のために国がお金を出すというよりは社会に役に立つためにお金を出してもらっているということも考えないといけないので、「いかなる改革も学術の発展を通して社会に資するものであるべき」というふうにしたほうが良いと思います。

○光石衛会長　学術の発展に真に資するべきという点もあるかと思いますが、副題にありますように世界に貢献するという意味も含めないといけないということであれば、そういうことに対応する文言も含めるということは考えられると思います。

○市川温子会員　読んだときに、何か自分たちのためだなという印象を受けたので。

○光石衛会長　昨日も申し上げましたが、ステークホルダーがいろいろあって、それで国民、政府とか、それから学協会というのもありますので、そこも意識してということで双方が入るようにしたいと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長　続いて、第三部、森口会員、お願いします。

○森口祐一会員　第三部、森口でございます。

　　先ほど来の議論と少し関わるんですが、内容の各論というよりこの文書から受けるイメ

ージというのが非常に重要ななと思っておりまして、この「あり続けるために」というのはもちろんその使命を果たし続けなければいけないという意味でのあり続けるだと思ふんですけれども、変わらないということ、すごく変わりたくないというニュアンスに受け止められてしまう可能性があるんじゃないかと思います。世界に貢献するというのは当然重要なんですけども、国民、国に対して貢献してくれているのかということがなかなか通じていないという部分もあるかなと思います。

昨日の午前中、あの問題を取り上げていただいたのは非常に重要だと思いますし、学術の発展なくしてはやはりその国の産業なり経済なりの基盤がかなり危ういところへ行きかねないというところに来ているんだと思いますので、そういった意味で学術会議が今言っていることは決して国益を損ねるわけではない、むしろそのために必要であるということがうまく伝えられていないような気がしております。

先ほど、第三部でも少し議論がございましたけれども、学協会であるとか、大学であるとか、学術会議の会員以外の学術に携わっている者からもこういう状況が我が事としてうまく伝わっているのかどうかということもあろうかと思ひます。最初の段落にある「学術は国家及び人類の発展に不可欠な基盤であり」というようなことがもう少しうまく伝わるようにして、それがゆえに学術会議の独立性が必要であるということがもう少し伝わらないと、今の文章のタイトルだけから見ると、知らない者から見ればやはり学術会議がこれまでどおり変わりたくないというメッセージがちょっと強く出ているように感じました。あくまで私の所感でございますけれども、そのように感じましたので意見として申し上げます。

○光石衛会長 何かいい代案はありますか。

○森口祐一会員 それを考へているうちに指されるかなと思ひて、意外に早く回ってまいりまして、うまく言えないんですけども、「世界に貢献する」という言葉、ナショナル・アカデミーは良いとして、「あり続ける」のところは少し考へ直したほうが良いかなと思ひます。

○光石衛会長 ありがとうございます。

「あり続ける」と書いた趣旨は、今もそうであるが未来もそうしたいという趣旨で書いていますが、受ける印象というのも確かに重要です。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 はい、どうぞ。

○狩野光伸会員 狩野でございます。

広報の国内外情報発信強化分科会の委員長を担当しておりまして、そちらで一体、日本

学術会議をどういうふうに役割として世間に伝えたいのかということを考えてみました。その際に、振り返ってみるとこう書いてあります。

主に以下の四つです。「政府・社会に対して日本の科学者の意見を直接提言」、「市民社会との対話を通じて科学への理解を深める」、「地域社会の学術振興や学協会への機能強化に貢献」、それから、「日本を代表するアカデミーとして国際学術交流を推進」と、この四つを挙げて、これらをするためには、というような説明を加えられてはいかかなということは思いました。ちょっと文言が長いので付言なのかもしれませんが、こうした機能をしっかり発揮するために今の内容が必要であるという説明はいかがでしょうか。

以上です。

○日比谷潤子副会長 ありがとうございます。

ほかに。

それでは、後ろの方から先にお願います。そして川嶋会員に行きますので、先に中村会員、お願いします。

○中村征樹会員 第一部の中村です。

今までの部分にも関わるんですけど、やはりこの提言というものを国民も見るというようなことを考えると、先ほどの学術の発展だけではなくて、それと同時に国家及び人類の発展に不可欠だとか、そういうようなことをちゃんと前面に出すのが必要かなというふうに思うということと。

あと、第2の政府からの自律性・独立性を担保することが重要ということも、これは学術会議だけが言っているということではなく、内閣府の有識者懇談会の中でも例えば政府等に対して独立した立場から客観的で学術的、科学的根拠に基づく助言を行うことが期待されるというふうに言われているとか、何かそういう学術会議だけが言っているわけじゃなくて学術会議の役割を果たすためにはそういうところが重要だという、なんで自律性・独立性を担保することが重要なのかということについても一言、しかも有識者懇談会で言われているようなことを組み込んだほうがいいんじゃないかということが1点。

あと、もう一点として、コ・オペレーションについて。今、在り方の見直しの中で投票制度とかというのができているわけですけども、かつて投票制度というのは実際学術会議も利用していたけれども、その反省に基づいてコ・オペレーションというものが採用されたんだという、これまでの経緯を踏まえた上でコ・オペレーションに行っているということと等もちゃんと明確に主張したほうがいいのかというふうに思いました。

以上です。

○光石衛会長 コ・オペレーションについても、過去に投票制度を実施したがそれを見直してコ・オペレーションになっていることを脚注かどこかに入れたほうがいいのかという御意

見と伺いました。

○日比谷潤子副会長 川嶋会員、お願いします。

○川嶋四郎会員 ありがとうございます。

短期間にこのようなものをまとめていただきまして、どうもありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

1年ぐらい前にも申し上げたことなのですが、私たちは、問題が出たらその問題に対して回答するというのには非常に慣れているというか、これまでそういうような研究スタンスを取ってきたのではないかと思います。つまり、敷かれた線路、その線路の上に乗ってその線路をどこに行き着かせるべきであるかというようなことを議論しているのではないかと思います。私のこれからの発言はこういう考え方もあるということで、幹事会でどのように考えられるかはお任せいたします。

私は、先ほど会長がおっしゃったように、形態、組織はいかなるものであれ実質的にこのような要件が満たされるということが大事であるというお話をされましたことに大賛成です。ただ、私は、形式というのも非常に重要じゃないかと思っております。これをそのまま読みますと、もう法人化やむなしという前提で、法人化されるとしたらこの辺りのことは堅持していただきたいという要請に見えるのではないかと思います。したがって、コメントといたしましては、あくまでも私は「より良い役割発揮」で一つの改革の方向性を日本学術会議は示せたと思っておりますので、それ以上に改革する必要はないこと、むしろ「より良い役割発揮」がどのように具体化されていくのかということを見ていただきたいということが重要だと思います。私はそういうスタンスを取っているのですが、したがって、まずもって法人化の必要性はないと考えます。それが主位的な請求といえますか、第一次的な要求、私はそれがいいのではないかと思います。その下に書いてある実質的な要件の堅持というのは、あくまでも第二次的に、万が一にも法人化される場合にはこういうところは絶対に死守したいということの表現であるということが伝わるような形で文章を書いていただくのがいいのではないかと思います。

変わらないということ、今までのままでいいのだというふうに見られているという面はあるかも知れないですけど、この「より良い役割発揮」を読んでいただくと必ずしもそんなことは考えていないということも伝わると思います。それゆえ、私は線路を剥がすというのも大事な仕事じゃないかと考えますし、ただ、その線路の上に乗っかるとした場合にこれだけは絶対に譲れないという2段階で考えていくのが一番いいのではないかと考えております。

どうもありがとうございます。

○光石衛会長 1年前ではなくて4か月前でしょうか。この主張の前段にもう一段欲しい

という話と伺いました。

○川嶋四郎会員 ありがとうございます。あくまでも、法人化をしなくても「より良い役割発揮」はできるのだということ、現在のままでもできるのだということ、それで独立性もきちんと保てるということ、それでも万が一法人化ということになれば、この辺りは死守したというか、うちの立場に立った表現としてはそうなのですが、それらを堅持していただきたい、確保していただきたいという主張になるかと思います。

○光石衛会長 ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 ほかにいかがでしょうか。

オンラインの方も御意見がありましたら挙手機能を使ってお知らせください。

会場の方々は。

お願いします。

○高田保之会員 第三部の高田です。

2 ページ目の第3 のところの文章なんですけど、一番最後に「第 27 期の会員選考も同様である」と書いてありますが、私はこの一文は削除したほうが良いように思います。さっき読んだ途端に、変わりたくないよねと言っているように受け取りました。さっき杉山先生は、ここに「透明性を担保して会員選考をやる」というふうに付け加えたらいいと言われたんですけど、それは私も賛成なんですけど、ここの最後の文章がちょっと、一般の人が見てどうかというふうに感じた次第です。

○光石衛会長 ここは、下手をすると 75 年の歴史に終止符が打たれる可能性があるということと特に強調しておきたいということと、それから、特にこの 12 月 21 日あるいは 22 日に発出されたものを見ると「新しい学術会議」と盛んに書かれており、それで、私は 25 期-26 期ですが、26 期-27 期に会員になられている方がどうなるのか、継続性がどうなるのか、それから 27 期の選考はどうなるかということと、ここは極めて重要であるということと改めてあえて書いているという状況です。新しい学術会議になってまさか第 1 期にならないですよという意味も含めて書いているという次第です。そういう印象を持たれるということでしたら幹事会で検討はいたしますが、趣旨としてはそういうことです。

○日比谷潤子副会長 2 回目の御発言ですが、1 回目がまだの方で御発言の御希望はよろしいですか。

なければ 2 回目で結構です。どうぞ。

○芳賀満会員 失礼します。一部の芳賀です。

もう一度言うと、「法人化」イコール「自律性・独立性の担保」ではないということ、そこが多分我々が一番指摘したいことだと思うので、もっと分かりやすく書けばいいかなということです。

もう一つは、G7の各国のアカデミーもそのことを懸念している、と書いてもいいのではないのでしょうか。今年イタリアでのG7サミットにあたってG7のアカデミーで科学的な政策提言を作成して、光石会長が御出席の下で、4月11日、12日にローマのリンチェイアカデミーで公表されましたが、その際にリンチェイのアカデミーの会長だったか副会長だったかも、日本の日本学術会議に関してそのような発言を最後の挨拶のところでおっしゃっていました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

法人化が必ずしも独立性・自律性ではないということは、1回喋ったからといってみんなが知っているわけではないということで、何回も何回も書いたほうが良いと思います。

海外のアカデミーでもそのように言っているということについて、どこにどう入れ込むかということはあると思いますが、大変貴重な意見として入れるかどうかも含めて検討したいと思います。できるだけ入れられるようにしたいと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 ほかにはよろしいでしょうか。

どうぞ。

○西岡加名恵会員 第一部の西岡です。

すみません。的外れなことばかり言っているかもしれないんですけど、実は連携会員の方の中にも日本学術会議が独立して意見を言いたいのなら法人化するのは当然だろうみたいな意見をおっしゃる方がおられて、連携会員でさえそういう御意見なんだというのは、やっぱりリアルに法人化が起こって最悪のシナリオが現実になったときにどういう絵になるのかというのがあまりイメージが伝わっていないんだと思うんですね。

先ほどの予算のことをもうちょっと具体的に。結局、日本学術会議が学術会議たる責任を担おうと思えば幾らぐらいの予算が実際要るのかとか、現実には今、私たち、本当に全然予算がないところで、善意にだけ支えられて活動をやっているだとか、今までの日本学術会議のスタイルから言えばこういう意見の表出は本当に意義があるといいますか、格調高くて素晴らしいと思いますし、本当に幹事の先生方はじめ御尽力をいただいていることは重々理解しているんですけども、それで一般の社会に届くのかなというのがどうしても気になってしまいまして、表出は表出でこの文面で異論はないんですけども、ちょっ

と最悪の場合は、正直、私なんかも学術会議は次の期はもつのかなぐらいの感覚でいるものですから、その危機感が社会に伝わるような伝え方をできないのかなというのが先ほど来の発言の趣旨です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

この声明は声明としてもっと分かりやすく、連携会員ですらというのは確かにそのとおりであると思います。やはり伝わるようにしないと、そういう努力をしないといけないと思いますので、それは是非やりたいと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 はい、どうぞ。

○小林武彦会員 二部の小林でございます。

たしかに、今、先生がおっしゃったようなことが重要かなと思ひまして、この表題だけを見ても法人化に向けている、これだけ読んでやめられちゃったら困るんですけども、要するに法人化に向けてそういう方向で動いているのかなというような何かイメージがあって、例えば分かりやすくするんだったら、最初に政府案とつけて「日本学術会議の法人化に向けて（令和5年12月22日に対する懸念）声明」ぐらいの、表題だけ読んだら意図が分かるようにしたほうがいいのかなど思った。ちょっと学術会議のスタイルとは違うんですけども、何か表題だけを見るとそちらの方向に動いているのかなというふうな、そこだけを読んだ人が印象を持ちちゃうと嫌だなと思いました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

私達も見慣れてしまっていて、そういう感覚がなくなっていますので、フレッシュな目で見ていただいた感想は極めて貴重と思います。できるだけ取り入れたいと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 はい、どうぞ。

○美馬のゆり会員 第一部の美馬でございます。

広報委員会かどこかでお聞きしたと思うんですけども、学術会議としてサイエンスライターのような、あるいはテレビ局出身でしたっけ、何かの方にアドバイザーとして入っていただいているということを知った気がするんですけど、そういう方にこういうものを見てもらうというのは、もうそれはお願いできないことなんでしょうか。

○光石衛会長 お願いできると思います。まだ見ていただいておりません。ありがとうございます

ざいます。

○日比谷潤子副会長 どうぞ。はい。

○明和政子会員 第一部の明和です。

私自身、専門として脳と心の働きの研究をやっているもので、どうしても文章を読むときに脳のどのネットワークがよく復活するかなということを考えながら読むんですけども、今、第二部の先生がおっしゃったように、「懸念」というキーワードを入れますとやっぱり脳の深いところ、つまり感情の部分、心が動くような心が生まれてくるんですね。今、御尽力をいただいて出していただいた案を読みますと、なかなか心が動かされるような言葉遣いが少し弱いのかなというふうに思いまして、もちろんこれは宛先がどこかにはよるんですけども、もし一般の市民の人たちも一生懸命考えてもらいたいという思いをそこに含めるのであれば、もう少しエモーショナルな言葉も思い切って入れつつ、やはりこれだけ私たちは危機的なことを感じていますよ、覚悟を持っていますよというふうなことを表現していくというのは大事なことでないかと考えます。

以上です。

○光石衛会長 大変重要な指摘をありがとうございます。例えば、こことここを変えると良くなるのではないかという提案を是非、後でも結構ですのでいただければと思います。

理系の人間はとかく感情を入れずに書くという訓練をされていますので。

○明和政子会員 私たち、文理融合領域は2種類の書き方を絶対にしろというふうにトレーニングをされますので、やっぱりそういったことは大事かなと思います。

○光石衛会長 大変重要かと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 第三部、多々納会員、お願いします。

○多々納裕一会員 ほぼ同じことなんですけど、1・2・3についてやはり分かりにくいという意見がいっぱいあると思うんですよ。できたらこれを、文章、これはいいと思うんですけど、できれば別の紙に図の分かりやすい、こういう窮状に今あるとか、こういう状況なんですというお願い文的な表現とかでもいいと思うので、一般の方が分かりやすくなるようなこの背景になる話を解説したようなものをつけられるといいなと思いました。この文書の中でいじろうとすると結構難しいかなと思ったんですが、説明ならこの前の総会の資料とかでもかなり入れていただいておりますので、そういったものも使いながら少し窮状を訴えたり、こういうところが心配なんですということが分かるような表現はできるんじ

やないかなと思ったのですが、御検討をいただければ。

○光石衛会長 ありがとうございます。確かにそのとおりに思います。

○日比谷潤子副会長 ほかにはよろしいでしょうか。よろしいですか。

ごめんなさい。森口会員ですね。

○森口祐一会員 第三部、森口でございます。先ほど光石会長からの宿題に即答できませんでしたので。

これがいいというわけではないんですけれども、ニュアンスとしてこういうことができるだろうか。世界に貢献、は重要なんですけれども、国民から信頼されているのかどうかということが私は大変気になっておりまして、例えば「世界にも国民にも信頼されるナショナル・アカデミーであるために」とか。そういうふうに支持を、我々には、味方があり、そういったところに役立っているんだというふうに、クライアント、ちょっと第三部的なトーンが強過ぎる語かもしれません、第三部の意見交換の中では誰に役立っているんだということをもう少し明確にしないと、このタイトルだと自分たちがこうしたいんだというのが強くて、クライアントに向けたメッセージという性格がちょっと弱いのではないかなという気がしました。世界にという意味では、先進国のアカデミーではとかG7ではという話が先ほど出てきましたけれども、昨日の午前中の発表から言いますと、もはや日本が先進国の一部なのかどうか自身が危ういというような状況の中でこういう議論があるわけですので、それを我々自身が少し自覚して書くとすればそのぐらい控えめな書き方もあり得るのかなというふうに思いました。

○光石衛会長 ありがとうございます。

1点だけ皆さんにお伺いしたいのですが、これは「あるために」というと今そうではないけれどそうなりたいという表現、「あり続けるために」ですと今もそうであるがこれからもそうなりたいという意味と思いますが、「あるために」のほうが良いでしょうか。「あり続けるために」とどちらが良いかというところはどうでしょうか。

○森口祐一会員 森口です。

「となるために」とまで書いてしまうと明らかに今そうではないから変わりますよということになってしまうので、そこまで否定ができないので、何とか中立的にあり続けるのでもないし、これまでそうじゃなかったから変わるんだということまで自己否定をしないぎりぎりの表現として何かよりよい表現があればと思ひまして、その後ろの文はちょっと暫定的な考え方にすぎません。「となるために」というか、そういうふうに今はそうじゃないからというようなニュアンスは出さないほうがいいというのは会長がおっしゃるとお

りだと思えます。

○光石衛会長 そうすると、そのぎりぎりの線が「あるために」ということかもしれないということですね。ありがとうございます。

その部分については、もしほかの意見がありましたらお願いいたします。

それでは、大変貴重な意見をたくさんいただきましてありがとうございます。方向性やこういうものを出すということについてあまり反論はなかったという気がしております。これに加えてさらにという意見は大変たくさんいただいたと思います。まず、この方向、この趣旨の声明を出すということについてお諮りしたいと思いますが、これについてはよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

今日この後に幹事会が開かれますが、そこで修正しきれるかどうかは自信がないところではありますが、そこで今日いただいた御意見を基に議論をし、修正しきれればそこで決定し、しきれなければまた別途幹事会を開いてということになるかと思えます。それで大枠は了解をいただいたということであれば、あとは幹事会で議論してということと思えます。

○日比谷潤子副会長 芳賀会員からお手が挙がりましたが。

○芳賀満会員 単なる事務手続として、前回は声明レベルでは投票とかは行いませんでしたか。しなかったですか。

あとタイトルの文言に関してですが、「として」というのはどうですか。「ナショナル・アカデミーとして」。

二つのことで、すみません。

一つは事務手続の確認が、たしか以前は第一部長が反対意見を出して、声明レベルでは拍手でなくて投票でしょうと、なんてことがあったような気がしたのですが。本当に事務的なことです。

○日比谷潤子副会長 事務局は回答はよろしいですか。

特段公表すべきというような手続は踏まれていないと理解しておりますが。

○芳賀満会員 たしか橋本部長が、これは投票すべきこととおっしゃって、声明のときは投票したような。

○日比谷潤子副会長 橋本部長だとすると25期ですよ。

○芳賀満会員 はい、25期のときの声明です。

○光石衛会長 事務的な手続として、必ず投票しないとイケないという決まりにはなっていないと。

○芳賀満会員 そうですか。分かりました。それだけです。

○宇山智彦会員 すみません。勧告のことをおっしゃっていたんじゃないかと。

○芳賀満会員 勧告か。私が間違えました。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 その後、何かもう一点、別なことを先ほどおっしゃいましたか。ちょっと聞き取れなかったんですけど。

○芳賀満会員 それは、タイトルの文言の最後が「アカデミーとして」というのはどうですか、ということです。

○日比谷潤子副会長 分かりました。

○光石衛会長 ありがとうございます。

「として」という案も出ていますが、森口会員、何かもしコメントがあればお願いします。

○森口祐一会員 いえ、末尾は特にこだわりはございません。いい案が示せるわけではございません。こだわりはございません。

○光石衛会長 この後の取扱いですが、幹事会を通して会長一任という形でよろしいでしょうか。少なくともこの総会でこういう方向で発出するということの合意はいただいております。その点についてはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

○日比谷潤子副会長 どうぞ。

○田浦健次朗会員 三部の田浦です。

先ほど多々納先生から、何かもうちょっと分かりやすいようなものを一緒につけて出したらいんじゃないかという御意見があったと思うんですけど、私も全くそういうふう

思っています、今回の声明は短くて、それ自身をすごく長くしてということでは多分ないと思うんですけど、必要に応じて詳しいことが見たい人のための、別に資料が添付されてなくてもいいし、ホームページにすごく分かりやすく書いてあるとか、そういうのが私は一番個人的にいいと思うんですけど、そういうのと併せて出そうと思ったらそれなりに時間がかかると思うんですね。なので、今回とにかくこれはこれでもう単独で出しちゃいますと言って、詳しいことが分かって欲しいと思っても分からないというふうに急いでやる必要があるのかどうかというのをちょっと思ったもので。この今のタイミングというのはすごく重要なんでしょうか、12月からはもう随分時間がかかっていると思いますけども。

○光石衛会長 先週の月曜日から、政府側のここで書いてある検討ワーキングが走り始めていますので、あまり遅くなるとよくないので、もし可能であれば今日の総会で賛同いただいて、それでまずこれはこれとして出すと。それから分かりやすい解説的なものはまた別途出すということをお認めいただければと思います。よろしいでしょうか。

そうしましたら、方向性としては賛同をいただいたということで、それで少なからず修正はあり得ると思いますが、それを幹事会で議論した後に、総会のメンバーにもう一回戻すところまではせず、もちろん共有はしますが、幹事会の後は会長で責任を持って出すということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

[アクションプランについて]

○日比谷潤子副会長 それでは、お待ちになっている方も多いかと思いますが、昨日、第三部部長から御説明のありましたアクションプランについてこれから議題としたいと思えます。いろいろな御意見があると思いますが、これから3時半少し前まででございませけれども、アクションプランについての議論に入りたいと思えます。

沖部長はそこにいらっしゃいますか、それともこちらにいらして対応…分かりました。

また質問票を使ってもお知らせください。もちろん挙手でも結構です。

会長は休憩しますかという話ですが、ちょっと休憩しますか。

じゃあ、10分休憩しましょうか。そうしたら、今2時10分ですが、2時20分に再開いたします。

[休憩]

[再開（午後2時20分）]

○日比谷潤子副会長 まだお戻りではないですね、かなり席が空いていますので。特に真ん中の辺りが空いているようですが、ほとんどいらした方はお戻りでしょうか。

よろしいですか。

それでは、アクションプランについての討議を始めたいと思います。

昨日、説明を聞くだけで全く質問なども受け付けておりませんし、御意見をおっしゃる機会もありませんでしたので、どなたからでも結構ですがいかがでしょうか。

○光石衛会長 在り方に比べて意見は出にくい気もしますが、このような取組に関してもう少しこのようにしたら良いのではないかというサジェスションですとか、もっとこういうことについても取り組むべきではないかなど、そのような御意見をいただければと思います。

今日、何か結論を出すような性質のものではないと思っていますので、御自由に発言をいただければと思います。

○日比谷潤子副会長 逆に、沖部長から、この点についてはぜひ皆様の御意見を聞いておきたいということはありませんか。

○沖大幹部長 いや、特段ございませんけれども、昨日最後に申し上げましたとおり、光石会長がこの人なら引き受けてくれるんじゃないかという割とネポティズムに沿ってメンバーを構築されておりますので、いやいや、こういうことに関しては経験もあるしネットワークもあるしぜひ知見を生かしてほしい、あるいは生かしてほしいというボランティアなお手を挙げていただける方を大変心待ちにしております、実は昨日終わった後に1名志願していただきまして大変心が温まりましたので、ぜひ二部、三部の方からもそういう方が現れてくださるといいなと思っています。よろしく願いいたします。

○日比谷潤子副会長 どうぞ、中村会員、お願いします。

○中村征樹会員 第一部の中村です。

このアクションプランは、实际的に、具体的にどういうふうに動いていくというか、例えばどこの委員会が中心になって、どこの分科会が中心になってこれをやっていくとか、あるいは全体としてこれをやっていくとかという、それぞれのものについてどこがどういう形でこのプランというか、提示されているものを実現していくのかということについては、今ちょっと検討している最中なのかもしれないんですけども、現段階でちょっと具体的なイメージであったりとか、あるいはこれからこういう形で決めていくとかというのはあったりしますでしょうか。

○光石衛会長 それぞれありますが、既にある、例えば、分科会とか委員会とかがあるものについてはまずそこで具体的に施策を考えていただいて、それでこの企画ワーキングに

進捗状況なり、こういう問題があるけどどうだろうかというようなことを報告していただいて、それで進捗状況を確認するとともに困るような問題、あるいは例えばその分科会、委員会だけでは解決できないようなことがあれば皆で頭を使ってこういうふうにしたら良いのではないかということ、意見を出し合うというような、そのような進め方をしていきたいと思っています。実際、今そういう進め方が進みつつあるところです。本当は2週間に1回ぐらいこの企画ワーキングを開きたいのですが、今、1か月に1回ペースになっています。できるだけ頻繁に開催して、それである意味でこういうものが中期目標になるのではないかと私は思っています。それで、その企画ワーキングのところでも進捗状況を確認しつつ、ここは進んでいるけどここはなかなか進んでいないよねといったところがあれば、なぜ進まないのかという原因を見て、それを取り払うような努力をするということを企画ワーキングではやっていきたいと思えます。

産業界との連携ということも言っておりますが、課題解決型のテーマとしてどういうものがあるかという、外部評価委員からも言われていますように、そのチャンネル、アンテナを高くしてというようなことも言われていますので、産業界とコミュニケーションをするような機会をもっと増やす、この企画ワーキングだけでは多分できない、その枠だけではできなくて、別途そういうものを設ける必要があると思えます。そういうものを設けて実施していきたいということで「より良い役割発揮」がありますので、基本的にはそれに沿ってやるのですが、特にこういうところをやっていくというようなことを出していき、終わったものは終わったもので次にまた出してくるなど、そのようなやり方をしたいと思っています。

○中村征樹会員 ありがとうございます。

例えばその進捗状況とか、その半年ごとの総会の際に、また今こんな状況でとか、あるいはこういうところが今こうなっているみたいなものの共有みたいなものはされる予定ですか。

○光石衛会長 できればしたいと思っております。

○中村征樹会員 ありがとうございます。

○光石衛会長 そういう意味で、今回の沖部長に作っていただいた資料は文章ではありますが、今このようなことに取り組んでいるとかこういう方向でいくというようなことについて書いてあると思っていただければと思います。

○中村征樹会員 ありがとうございます。

多分、総会等で共有される、ほかの会員の方も、直接ここじゃない、ここでやってと言

われたところではないところで自分たちもこういうことができるかもなみたいな提案だったりとか、関与もできるのかなとちょっと思いました。ありがとうございます。

○光石衛会長 学術会議はやはり非常に多分野にまたがっていて、会員も210名と、これを多いというのか少ないというのかはあるかと思いますが、連携会員まで入れると二千数百名になるわけですので、なかなか全体をグリップするというのは難しいのですが、この企画ワーキングを中心として全体のアクティビティを把握していきたいと思っていますので、是非ともよろしく願いいたします。

○沖大幹部長 付け加えますと、7項目が企画ワーキングに書いてあると思いますが、それぞれにつきましてどなたが主に御担当をいただいて、例えば科学的助言対応委員会だとか、広報委員会だとか、外部評価対応委員会だとか、地方学術会議委員会だとか、そういう幹事会附置の委員会、あるいは国際委員会といった既存の委員会との、その方が橋渡しになって、実際はその委員会で活動を進めていただきながらその進捗を今会長がおっしゃったとおりに共有して、どこが弱い、あるいは縦割りでそれぞれ知らないまま進むのではなくて、今より良い在り方に向けてこういう企画を進めてやろうとしているんだというのがお互いにこの企画ワーキングを通じて共有できるようにしようということですので、そういう意味では半年に一度の総会の場では、ああやってまとめて進捗を御報告できると思いますが、各委員会であったり、あるいは各委員会を通じて部あるいはその分野別のところからこんな話が出てくるんだけど、というのが来たらしょうがないなと思って皆さんで協力していただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○日比谷潤子副会長 今、発言希望票をいただいております、第三部、下條会員、お願いいたします。

○下條真司会員 ありがとうございます。

ぜひ沖先生には御協力したいと思っていますが、我々の働き方はどちらかというとS I a c kとかB o xで進捗状況もリアルタイムに見ながらやるというのが普通なので、できればちょっとそういう形で、B o xはたしか使えるという話がございましたので、そういう形で進捗状況をリアルタイムに共有いただくと参加しやすいかなというふうに思っています。

それからあと、昨日の松本先生の話とかも聞いていて、この2番のハブ機能とか、3番の国際というところで、一つ、例えば情報学で関わっているのはS I N E Tとか学術情報ネットワークというのを実は国際的に貼っております、これは実は文科省、S I N E Tだけではなくて農水と、それから総務省が入って実は国際的な学術ネットワークをキープしているんですね。その上に皆さんの多分共同研究が成り立っていて、これは僕らはいつ

もいろんな交渉をしているんですけども、まさに国際外交の場でして、どういうふうな予算を誰が取っていてどこに持っていかみたい調整を、実は世界的にやっています。こういうこともある種国際外交の中に入れていただけるといいのではないかというふうに思います。

それからもう一つ、産業界との付き合いですけども、これもいわゆるレガシーな産業と、それから新しい産業がありまして、昨日言われた例えばポストドクとかドクターの話とか、いわゆるディープテックと言われるような本当に研究開発がそのまま利益に結びつくような企業は今いっぱい出ているので、ベンチャーとか、そういうところにも目を向けると少し面白いのかなというふうに思います。

以上です。

○日比谷潤子副会長 ありがとうございます。

それでは、だんだん希望票が来るようになりましたが。

ごめんなさい。どうぞ。

○光石衛会長 リアルタイムの情報共有の件についてはありがとうございます。

産業界とのコミュニケーションのところですが、今、会員で7名企業の方がいますので、その方々と、それから連携会員の方も入れて、今入っていらっしゃる企業の方はそこを中心として、さらにそこに入っていない企業の方にも声をかけて、それでいろいろ会話、例えば、この企画ワーキングのメンバーとそこの企業の方とでいろいろディスカッションをしたいと思っています。今日、佐田会員がオンラインで参加しているかどうかは分かりませんが、例えば、そのようなやり方をしていきたいと思っています。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 だんだん希望票が出てきまして、第一部、宇山会員、第三部、小口会員、そしてオンラインの三成会員の順でお願いします。

まず宇山会員です。

○宇山智彦会員 第一部の宇山です。

学術会議がこれまで取り組んできたことをさらに発展させるためのアクションプランとして、大変素晴らしいものを作成してくださったと思います。しかし、我々がこれまでもう本当にたくさんの活動をしてきたのにそれがなかなか外から理解されにくい、特に政府から理解されないというのがとても大きな問題であるわけで、その関係では「2.2 研究力強化に向けた検討の推進」というところをもう少し見直し、重点を置く必要があるのではないかと思います。これは、「2 各学術関係機関との密接なコミュニケーションとハブ活動の強化」の中に入っていますが、これは幾ら学術会議の中あるいは学協会などと話し合

っていても、実現に結びつかないわけで、昨日の午前中の3人の先生の講演も大変すばらしかったですが、あれを聞かせるべき相手は我々ではなくて、CSTI、文科省、財務省ではなかったのかという気がします。つまり、選択と集中ではなく中間層をもっと充実させるべきであるというのは我々はよく分かっているわけですが、政府はなかなか理解してくれていないわけですから、研究力強化に向けた検討というのは研究力強化とそのために必要な政策の検討である必要があるのではないかと。そして、我々の検討が政策に生かされるようにするために、前にも言いましたが、日本の学術体制全体の見直しという、前の期にそのための幅広い議論をつくるべきだといったまさにその課題をこれから学術会議のイニシアチブで実現していくために、広い話合いの検討の体制、政府を巻き込んだ検討の体制をつくるということをごここに盛り込むとよいのではないかと思います。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

私も、昨日午前中の講演は、例えば、豊田先生の講演は何度か聞いたことがあります、毎回リフレッシュ、バージョンアップがされていて、例えば、昨日午前と言われていたようなことを、既に回答としてはある程度出しているかもしれないですが、さらに皆さんが合意されるのであれば、そのようなことを何らかの形で、提言、助言、様々な形態がありますが、さらに短くてもいいので意味のある形で、効果的な発出の仕方というのは当然あり得ると思っています。豊田先生が昨日のデータをどうされようと思っているのかは確認をしないといけません、皆さんが昨日の午前の議論を聞いていて、こういうものをぜひ学術会議が出すべきであるということであれば、私もそう思いましたが、是非そのような方向で進められればと思います。

さらに、昨日、山口先生が多分やり残したこともあると言われていたと思いますので、それについては今期さらに進めることをやっていければと思います。

ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 第三部、小口会員、お願いいたします。

○小口高会員 第三部、小口です。

頂いた資料の一番初めの第1番のところに「タイムリー、スピーディーな意思の表出の発出」というのがあって、これはすごく最初のほうで目立つかなと思うんですけども、これ自身はもちろん正しいことだとは思いますが、ちょっと私はこれで思い出したことがあります、皆さんの中でソーシャルメディアとかを見られる方がいたら気づいた方もいらっしゃると思うんですけども、去年の夏くらいから福島原発の処理水を放出するというのをやったときになかなかそれで学術会議がたたかれたときがあって、その理由は何も言わないというところからたたかれたんですよ。つまり政府とかはこれは科学的に問題がない

からと言っていて、どうして学術会議はそれを科学的にサポートするようなことを言わないのかということが随分流れて、学術会議を一般の人たちがたたく一つのネタになってしまったというのがあります。背景としては変なこともあって、会員任命問題とかでかなり学術会議が批判されたときに、なぜか学術会議というのは中国とつるんでいるんだという変な陰謀論みたいな、それとつなげたりして要は中国に配慮してこれは科学的にオーケーだと言わないんだとか、そんなことまで出てきちゃっているというそういう状態があります。

学術会議は、私は連携会員で会員の前も長く関わってきましたけど、例えば見解とか、提言とかを出すときというのはすごく時間をかけて議論をして、一字一句チェックをして、査読とかもやって、それできちんと出すというのが学術会議のいいところかなというふうに思っているところがあります。そこで、一方でこういう社会的な要請とかもあると思うので、タイムリー、スピーディーに出すというのもあるとは思いますが、そういうリスクがあって十分に検討しないうちに出してしまうということもあるし、あるいはそのALPS処理水のときのたたかれ方から見ると相当なスピードでやらないとすぐ何か言われてしまうのかな、だからこういうのを学術会議の方針として表に出すということがいいのかなということもちょっと今思ったので、その辺りを検討していただければと思います。

○光石衛会長 2種類あると思います。ある意味で中長期的な視野で議論するものはゆっくり出してもいいと思いますが、世の中に求められている別のものは非常に早期に出す必要があると。そのようなものについては、意見両論併記でも私は構わないと思いますし、それからその意見が間違っているとしても仕方ないのではないかと思います。現段階でこういうことは検討する必要があるというようなことを例えば列記するのでも良いと思います。例えばあるところで何か考えているとすると、それにこのようなことも考えないといけないです、あるいは、抜けがありますよといったようなことを指摘するなどが必要だと思います。それが最終とするとなかなか出しにくいかもしれませんが、例えば中間報告のような形で、半年くらいのスパンで出していくということが求められているのではないかと私は感じています。

○小口高会員 了解いたしました。

さっき間違っているでもいいとおっしゃったんですけども、それは学術会議が権威であるべきだと思っている人から見るとちょっと違和感もあるかもしれないです。ただ、学術会議が、そもそも学問の世界というのは誰かが論文で見解を出したとしても10年後にはひっくり返っているかもしれないというのが当然の世界なので、そういうところもうまく伝わって行って、適宜間違っていたものは間違っていたと認めるというようなことも含めてそういう形でやっていけば、むしろ全体としては学術会議をより理解してもらえるかもしれ

ないというようにも思います。

○光石衛会長 多分、全て 100%の正解を求めてずっと出ないよりは、間違っただけでも 8割方正しければタイムリーに出ているほうがよほど有用だと思います。これは工学的センスなので、理学のセンスはもう少し違うかもしれません。

○日比谷潤子副会長 それでは、オンラインで御参加の三成会員、お願いします。

○三成賢次会員 第一部の三成です。聞こえていますかね。

○日比谷潤子副会長 はい、大丈夫です。

○三成賢次会員 ありがとうございます。

こういうアクションプランを提示していくというのは、私は基本的にはいいと思います。なぜかという、これから法人化にするかどうか、ちょっとこれは議論のあるところで私たちが懸念するところですけど、いずれにしても何らかの形で政府のプランの中でもいわゆる国立大学の中期目標、中期計画的な、そういうことを求めてくる可能性があるし、それに対する評価ですよね、そういったことを言われる前に、きちりと学術会議がこういうアクションプランという形で国に縛られるものではなくて、自分たちで積極的にそういうプランを出していくという姿勢を示すことは、私は、中期目標というか中期計画というかは別にして、こういうものをやるんだということを示していくことは非常に重要だろうと思います。

ただ、こういうものを出すと次に絶対言ってくるのは、じゃあどういふ進捗をしますかということ聞いてくるし、そういうことが問われると思います。先ほど中間報告という話がありましたけれども、そうするといわゆる評価の問題をきちりとやっていかないと、これは要するに国にやらされる評価ではなくて、自分たちが自分たちとしてこのアクションプランの質の保証をしていくための評価を自分たちできちりとやっていかないとやりっ放しかという話になってしまうので、言いつ放しかになってしまうので、そこら辺のメカニズムを自分なりにつくっておかないとなかなか説得力がないという。予算とかいろいろなことがあるのでそういう簡単な話じゃないんですけども、そういった意味では計画をつくるということは同時に評価に頼るものになっていかないといけないということも併せて考える必要があるので、そこら辺、外部評価委員会というのは、昨日、有識者の報告をいただきましたが、ああいう外部評価も一つのやり方ですけど、内部できちりと評価システムをつくっておかないと。それはあまりがちがちのものを使う必要はないと思うんですけども、やはりこういうアクションプランをつかった以上はある程度自分たちで積極的にそれがどう進捗していくのかということを見ていくシステムをつくっておかないと外

部になかなか説明はしにくいのかなというふうに思いました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

これは今回文書で出ていますが、評価ということではなく、自分たちでやはり進捗を把握する必要がありますので、どこまでできているかというようなこと、例えば何%、何十%できているかということはチェックしながら進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 第二部の小林会員、お願いします。

○小林武彦会員 すみません。こちらです。どうもお世話になっております。

意見があったんですけども、先ほど光石会長が全部言っちゃったのもういいかなと。

要するに、2.2の研究力強化のところで、昨日の午前中の先生のお話によると、ここ20年間の政策は全て間違っていたという結論だったと思うんですよ。そういうことに関して先ほどの先生が声明とかというふうな話で勧告レベルじゃないかなと、要するにこういう決め方をしてこれだけ間違えていたんですよと、それで全分野で同じことになっているんだからやっぱり国の政策全体の間違いですよねみたいなことをしっかり言うというのはある意味大切かなと思いました。

先生、昨日、C S T IはPolicy for Scienceで、学術会議はScience for Policyだと言いましたけど、これはちょっと考えるとあまり切り離すのは難しいんじゃないかなと思っていて、やはりそのPolicyに対して学術会議はこれこれこういうようなことがまずあったんじゃないですかということと言うということ自体も次のPolicyを言っているようなものですから、その要するに研究費のつけ方だとかどういうScienceをやっていくのかという、未来の学術構想にもありますけども、そういうことはある程度アクションプランの中に組み込んでいったほうがいいのかと思いました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

昨日の午前の議論こそ、本来この学術会議で多分野の人が集まって議論すべき事項であると思います。在り方を議論すべきでないと言っているわけではないのですが、そういう意味で昨日の午前中は、非常によかったと思っています。

それで、Science for Policyなので、Policyのほうが言うことを聞くかどうかということは政府側の問題で、そういう意味で車の両輪と言われているのではないかと思います。C S T Iにそもそも入るべきかどうかという議論もありましたが、そういうことを学術会議としてはC S T Iの会議の場で言うということが重要であると改めて認識しまし

た。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 それでは、第一部の小畑会員、お願いします。

○小畑郁会員 すみません。資料のつくり方として「タイムリー、スピーディーな意思の表出の発出」というところが最初に出てくるもので、これ自体は間違っていないと思うんですけども、若干、私は違和感を感じる場所がありまして、というのは、もちろん中長期的なことについて学術会議は何も考えてないということじゃなくて、次のところでは未来の学術構想等にも言及されておられるように、中長期的なものも考えておられるということは理解しているつもりなんですけども。

例えば日本社会がこれから直面する問題というのは恐らく中長期的に考えないと何も解決しない、単に若者に優遇策を与えろとか、そういうことでは解決しないという問題がある、人口減少とか、あるいは高齢化というようなそういう問題があるわけですよ。そういうときにやっぱり中長期的にどういうふうな政策がこの社会で求められているのかということは、私は社会分野ですので学術の課題でもあるというふうに思うんですよ。そうしますと、一方で、「タイムリー、スピーディーな意思の表出の発出」というのをやっていかなければいけないんですけども、やっぱり中長期的な視野に立った社会課題の解決ということについて、時間はかかっても検討を進めていくということはきちんと一方でうたうべきじゃないかというふうに思います。

その点で恐らく接点になるのは、これは男女共同参画基本計画なんかでもそうなんですけども、ああいう基本計画というのが政府でいろいろな形で動いている、一番大きなのは骨太の方針というようなものなんですけども、そういう形で動いているわけですよ。その期ごにある意味で部分的には男女共同参画基本計画のように対応しているものもあるんですけども、ちょっと洗い出してみても、それに対して学術会議としてはどういうふうに考えるのかということをやってみるというのも一つの考え方ではないかというふうに思うんですね。

だから、ぜひ「タイムリー、スピーディーな意思の表出の発出」というのをアクションプランとしては考えるとしても、他方で中長期的な視野に立った社会課題の解決に向けて研究と議論を積み重ねると、広いステークホルダーと討議を積み重ねると、そういうこともちょっと入れていただければありがたいなというふうに思います。

○光石衛会長 ありがとうございます。

これは前回も申し上げたような気もしますが、この1と2とはペアでありまして、1、2となっていますがどちらが優劣というわけではないわけです。2はこれまでも学術会議で当然やってきたのですが、この2というのはある意味で世間からなかなか評価がされにくいというところもあり、しかしながら非常に重要なものと認識しています。本当はこちらを先に書いたほうが良いかもしれないのですが、今色々と言われていて、政府からはこ

の1だけでいいのではないかというようなことを言われている節もあり、この1のほうを先に書いているという状況です。私としてはやはりこの1のものと、それから2の中長期に考えるという、そこは両方重要とっており、政府がよくタイムスケールが一致しないということを行っています、学術はやはり短いものもあれば長いものもありますので、むしろこの長いもののほうこそが重要かもしれないので、その重要性というのはなかなか分かっていただけなく、だからこそアカデミアのことをちゃんと理解した上でこの学会の設計を設計してほしいと申し上げている次第です。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 ちょっとたまっていますので、順番を最初に申し上げます。第三部、岡本会員、第一部、オンラインの戸谷会員、第三部、市川会員、第三部、玉田会員の順にしたいと思いますので、まず岡本会員、お願いいたします。

○岡本裕巳会員 第三部、科学委員会の岡本です。

1番に関係したところで助言機能は非常に重要だと思っているんですけども、それで1.3のところ「助言の確実なフォローアップ」というのがあるんですけども、ちょっとこれがいま一つ具体的によく分からない印象があります。言いつ放しでなくて、その後こういった提言等がどういうふうに推移したかを見るということが重要ですよということを言っているんだと思うんですけども、フォローアップというのが具体的に何を意味しているのかがちょっとよく分からなくて、具体的にその提言等で言ったことを我々が積極的にアクションするというのを意味しているのか、それともその後の何か例えば統計的な推移を見ていくということの意味しているのか、ちょっとその辺が分かりづらいなという気がしました。そこら辺をもうちょっと分かりやすくしていただけないかということと、質問でもあります。

それから、もう一つはちょっと非常に細かいことなんですけども、6.2で若年層への情報発信ということでSuper Science High Schoolのことが書いてあるんですけども、このSSHというのはもともと文科省がSSHとして事業を開始したスペシフィックな事業だと思うんですね。だから、もうちょっとこれはブロードな言い方をすることが必要ではないかと思いました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

2点目は磯副会長にお答えいただければと思いますが、1点目のフォローアップというのは、出した施策の提言、助言を、例えばそれを実行する省庁にコンタクトしてちゃんとこれをやってくださいということを言うというような積極的なアクションをしてほしいということの意味しています。当然その後にはそれが実施されたかどうかということは見られるのですが、その積極的なアクションを是非ともお願いしたいというのがこのフォローアッ

プの意味です。

○磯博康副会長 2点目に対するコメントですが、内閣府とか、文科省とかに限定せず各省庁間で連携することは非常に重要だと思います。実際のところ、例えば第二部の基礎医学委員会ではSSHに呼びかけて高校生を対象とした講演会や意見交換の活動をこれまで行っています。広報を通じていかに若い世代や国民にリーチするかという段階に来ていると思いますので、その具体例としてSSHを取り上げました。

○岡本裕巳会員 すみません。趣旨は非常によく分かるんですけども、もともとのSSHと似た事業がいろいろ立ち上がっていると思うんですね。だから、そういうのも含めた形にならないかという、そういう。

○磯博康副会長 分かりました、SSH等という形で。あとはサイエンスカフェの活動もその範疇に入ってくると思いますので、了解しました。

○日比谷潤子副会長 オンラインで御参加の戸谷会員、お願いいたします。

○戸谷圭子会員 一部、計画委員会の戸谷です。

私もまさに今の6番のところが重要だと思っています。というのは、学術会議の任命問題が起きたときも世間からは非常に誤解をされていて、学士院と混同されているというような話もありましたし、SNSでかなり批判があったりとかというのと、誤解に基づいているところがありました。

学術会議の広報体制というのが強いかというと、非常に弱いというのが経営的な見方からすると印象です。ホームページで載せるとか、学術の動向のことが書かれているんですけども、学術会議のホームページがどれぐらい見られているとか、学術の動向をどれぐらい購読されているかというやはりかなり弱いと思うんですね。広報をきちんとしようと思うとやはりお金が要るわけですけども、じゃないときに企業がどうやって広報をするかというパブリシティを使うわけです、正式見解を出す、それにメディアに来てもらってメディアに取り上げてもらうということ、そのためには非常に強烈なパブリシティというかメッセージを出していかないといけないんですけども、例えば今回の総会の内容というのをどれぐらいのメディアが取材に来ていて実際に取り上げてくれるのかというようなことを広報委員会でも真剣に取り上げて、外に向けてどう誤解を解いて国民に味方になってもらうかということに力を入れていかなければいけないのではないかというふうに考えています。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

御指摘のとおり、今、学術会議の広報は強いとはとても言えないと思います。ここに書いてあることだけをやればいいという話ではないと思います。様々なことをやっていきたいと思いますが、こういうものが効果的であるということを是非言っていただければと思います。

狩野会員、いかがでしょうか。

○狩野光伸会員 担当者ですが、いろんな方法を今の限界の中でできることはしているという状況なのではあります。一つ、先ほどもちょっと話題に出たアドバイザーの方と話をして出てきているのは、我々が一体「誰に対して何を伝えたいのか」というコンテンツについてしっかり固まると、その「伝え方」については、アドバイザーほかの広報の専門家が考えることができる、ということでした。ということで、ぜひ「誰に対して何を伝えたいのか」をしっかりとまとめてくださいという御意見でございました。

○日比谷潤子副会長 それでは、第三部、市川会員、お願いします。

○市川温子会員 またちょっと2に戻ってしまって、研究力強化についてなんですけど、昨日の御講演も非常にショッキングで、図に出してああやって見せられるともう本当に非常にまずい状況かなと、学術会議の存続よりもこちらのほうが本当にまずいんじゃないかという気がしていて、かつ、昨日の御講演だと、お金を削って、それで人を削った分だけどんどん研究力が落ちているというお話があったんですけど、ただし、実は研究者の数は微増しているんですよ。じゃあどうなったかということ、任期のない人、承継棒が減って任期付の人が増えてというふうになっているので、実はお金はそんなに削っていないのにあんなに競争力が落ちてしまっているんじゃないかというのが私の理解しているところで、削られた分を何とかしようと思って任期付をつけたんだと思うんですけど、そのお金の使い方は非常にうまくいかなかったんだと思います。これは今もう3年もかけて議論していていいものではなくてすぐにやらないといけないし、それから先進国で最下位だというのが出たのは新聞でも大きく出ているので、今すぐにメッセージを出すってすごく効果的だと思うんですよ。

それからあと、すみません、このお金の使い方はもちろん政府のほうにもお願いしたいことは出てくるんですけど、大学としてもお金の使い方をもっと何とかならないかというのを学術会議から大学に伝える、一緒に考えるというのをすぐにやるということが大切だと思うので、ぜひ3年間のうち2年半の任期じゃなくて、もう今年1年以内に強いメッセージを、この問題についてはもうすぐにでもやるというふうをお願いしたいと思いました。

○光石衛会長 ありがとうございます。

三枝副会長、何か。

○三枝信子副会長 非常に積極的なお申出をありがとうございました。

実は、昨日、山口先生からお話がありました、25期の研究力強化の課題別委員会というのが3年前の7月に立ち上がって、それから大変膨大なお仕事をしてくださったわけなんですけれども、今、水面下で26期においては7月よりも微妙に早く立ち上げようと思っているんですけど、まだ具体的な設置趣意書とか、あとメンバーの方々の案をつくっていないところなので、ぜひ今回、研究力強化について非常に一部、二部、三部から重要なお話をいただきましたので、一緒に委員をやっていただけるという方は後で、誰でもいいので幹事会のお近くの方でも私でも結構ですし、光石会長でもいいので、やりますと一言メールをいただければありがたく存じます。こちらからお願いをさしあげることもあるかと思いますので、ぜひ積極的に関わっていただければと思います。よろしく願いいたします。

○日比谷潤子副会長 では、第三部、玉田会員、お願いします。

○玉田薫会員 このアクションプラン、先ほどからどこに出すのかという話もあったところなんですけれども、組織としてはビジョンをつくるビジョンメイキングと、あと経営と運営があると思うんですけど、印象として、運営っぽい要素が見え隠れするとビジョンが見えなくなってくるんですよね。大学の中期目標なんかもそうなりがちなんですけど、やけに具体的なものと、外に向けてと中に向けての話と、それが混在している。これが内々の資料での「やることリスト」ならいいんですが、アクションプランとしてもし外に提示するのであれば、その辺りは整理する必要がないのかなと思いました。

あとは、ちょっと言い方が難しいんですけども、法人化に向けた練習というわけじゃないと思いますが、そう見るにしてもマイルストーンもないですし、そうするとやっぱり「やることリスト」みたいな感じに見えてしまう。そうであればビジョン的な面を強調する形で整理して、外向けの話と中の整備の話とはちょっと切り分けて記載するのがいいんじゃないのかなと思いました。

○光石衛会長 この上段にビジョンが書いてあるべきというように私も思います。ありがとうございます。

○沖大幹部長 そこについては、恐らくその3年前の「より良い機能発揮に向けて」という文書にビジョンが書いてあって、その下にそれに対してやるアクションプランがあって、それがなかなか過去3年でできなかったのもそのアクションのところを主に今回前面に押し出して今リストアップしているというのが私の理解ですが、3年前の文章ですし、そうい

う意味ではやっぱりビジョン的なものがきちんと書かれてもいいかもしれませんが、ペアになるような文書があったほうがいいかもしれないと思います。

○光石衛会長 おっしゃるとおりで、「より良い役割発揮」の目的、ビジョンは変わって
いなく、特にここについては今期絶対にやりますというリストになっていると思っ
ただくほうがいいかもしれないです。

○日比谷潤子副会長 続きまして、第三部、腰原会員、お願いします。

○腰原伸也会員 腰原です。

非常にこれは僕自身の目ではよくまとまっているというか、問題点をよくぞこれだけ
ちゃんとリストアップしていただいたと思っているんですが、実はそれに関連して一つお願
い、それから二つコメントがございます。

一つは、1.3 の先ほどの意思の表出のところのフォローアップです。このフォローア
ップというのが、出したものがどういうふうに省庁とかそういうところを含めてア
ピールをしたかとかいうところが、今、予算とかいろんなことが絡みますのでそこ
にというところが主に置かれてしまうのは気持ちは分かるんですけども、一方
で、その出したものに対するアフターケアというか、フォローアップというか、
実際に表出した意思の表現等もそうですし完璧なものではありませんので、
その後もう少しブラッシュアップするとか、時間的な制約も今いろいろあります
ので、それをやるということもぜひフォローアップに含めていただければという
お願いです。それが一つ、お願いです。

それから、あと二つはコメントなんですが、特に先ほど玉田先生のほうから、
要するに本当に行動計画というかやることリストなのかビジョンなのかという
のがあったんですが、実は僕自身はやることリストというふうに思っ
ただくほうがいいんじゃないかと思っ
ているんですが、ただ一方で、例えばこの2.2のところも先ほどからいろいろ
議論になっているように、皆さんのこの学術会議が忌憚のない意見を言
える場である、政府に対してバランスはいろいろ考えなきゃいけない
ですけど言うべきときには物申すという場所であればこそあ
あいう意見が出てくる、昨日の午前中の議論が出てくること
ができると思うんですね。ですから、まさに学術会議はどうあるべきか
というところの中に、一種の実例としてこういったものが維持
できるんだということを考えて心の内にとめておいていただく
ことが重要ではないかというふうに思っています。

また、こういうプランとか、もうちょっと大きな一般の人が見る目
で言うと、地方創生のところと絡んで5番に書いてあるんですが、
これはやっぱり地方大学にとっては、今、例の特色ある大学の
とかいろんな予算、要するにエンジンがつり下がっているわけ
ですけども、それとも関連して非常に要望が強くなる可能性も
あると思います。なので、今ここにはちょっと書いてある
だけというところもあるんですけども、やはり何か実際の行動

が求められてしまう可能性もあるので、この点も心の内にとめておいていただく必要があるんじゃないかなと思いました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

最後の5のところですが、是非とも良い案を出していただきたいというのが正直なところでは。

○腰原伸也会員 いや、それはもう政府から何から、みんなそれもあるんじゃないでしょうか。

○光石衛会長 是非ともここから良いプランを出していただきたいですし、例えば、選択と集中がまずいというようなことなので、地方大学にもしっかり予算を配布するということが重要であると言っています。そういうことも一つと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 第二部、北島会員、お願いします。

○北島薫会員 どうもいろいろと考えていただいている非常にいいと思うのですが、このやることリスト、アクションプランの中で、プライオリティー、つまり何が優先度が高いか、もしくは low-hanging fruit、すなわち実現できる一番やりやすそうなことは何か、というようなことについて、沖先生もしくは光石会長に何か一言いただければと思います。

○沖大幹部長 優先順位はついておりませんが、先ほど来ございましたとおり、やはり一丁目一番地、上から読んでいったときに目立つところにアピールしたい点があるというふうに私は理解しております。ただ、優先順位をつけなきゃいけないのは主にリソースの配分がある場合ですけれども、今回に関しましてはそれぞれについてはもう何らかの委員会、あるいは担当の副会長がいらっしゃいますので、副会長の中でどの項目を優先しなきゃいけないかというのは考えていただく必要がありますけれども、いずれも並行してやっていると、やらなければいけないものが会長の指示によってリストアップされているというふうに御覧いただければと思います。

Low-hanging fruit かどうかは分からないところがありまして、例えばコンテンツはあってその見せ方の問題だというふうに考えるところもあれば、でもそれを今の日本学術会議のウェブサーバを抜本的に変えて、検索機能を上げて構造化してタグをつけてさっと見たい情報にたどり着けるようにできるかということと案外大変。それはなぜかということ、技術的な問題だけじゃなくて、やはりそのコンテンツを理解し、コンテキストを理解した方が技術の方にちゃんとコミュニケーションしていったらなきゃいけないので、思ったほ

どにはうまくいかない可能性があるとか、あるいは、いや、うまいタイミングでうまいチームが組めればいけるかもしれないとか、ちょっとそういうところがございまして、どれだったらすぐに、例えば半年後の総会でこれはもうできたというふうな御報告ができるかは今のところはすぐにはお答えできませんけれども、例えばその「タイムリー、スピーディーな意思の表出」の仕方のこういう枠組みでやりましょう、その実例はこれですというのではできれば半年後までには御報告ができるといいなというふうに考えています。

○光石衛会長 これはスタートできるのが遅いか早いかというのはあるのですが、恐らく今期にこれを全部やらないとまずいのではないのでしょうかと私は思っています。

○日比谷潤子副会長 第二部、磯部会員、お願いします。

○磯部祥子会員 私、まだ今期からなのでよく状況も分かっていない中でちょっと偉そうなことを言うかもしれないんですけど、例えばまずこのアクションプランというのはどこまでの範囲で公表されるものなのかなということがよく分かっておらず、もしこれが学術会議以外のところにも公表される場合なんですけど、例えばその「タイムリー・スピーディーな意思の表出」といったところで、見える化してクラウド上の共有フォルダーの活用を行うとか、どうでもいいなと言っては申し訳ないんですけど、わざわざ言うことかなと思っちゃうんですね。

逆に、昨日の議論もあったんですけど、私たち、すごく研究に対して危機的な状況があって、すごく危機的で何とかしないとイケないというこの危機感がアクションプランから全然感じられなくて、よい子の文書みたいな感じになっているなと思っていて、これだと正直、学術会議以外の研究者の皆様も含めて、学術会議はアクションプランとか言っているけど何をやっているのかなと思われてもしようがないのかなと感じてしまうんです。すみません。これがちょっとどういうものなのかもよく分かっておらずの発言になっているんですけど、なので、私としてはやっぱり一番大切なのはこの2.1かなというふうに思っていて、やはり学術が非常に危機的にある中で、今後、我々はどうしていくのかということを実際に考えるんだというものをもう少し感じられるような内容にしていきたいなと思った次第です。

以上です。

○光石衛会長 お答えいたしますと、この大きい大項目1・2・3があり、それからその下に○、○というのがありますが、そこについてはこれまでは○、○までは示していません。そこから下に書いてある文章は作業状況の報告とさせていただくのが良いかと思えます。

これがどこに出ていくかということですが、この資料自身は公開されていますので誰で

も見ることができますので、それから本来はこの○、○という下にこういうことをやるという大きな目標が書いてあるべきと思います。今回の資料は、これを進めています、これの検討を行っていますという現状報告が出ていると思っていただければと思います。

○磯博康副会長 今の御意見はもっともですが、クラウド上の共有フォルダーがこれまであまり活用されていなかったためといった背景もあります。そういう意味では技術的な問題なので、このアクションプランのリストを、T o D oのお話だというふうに考えていただければと思います。

もちろん学術会議としての根本的な課題については、先ほどほかの先生方からもお話がありましたように、リスト化したものと理解していただければと思います。

あと、フォローアップについては、これまで提言等を出された先生方はご存じと思いますが、意思の表出をした1年後にどういったことが、例えば学会でシンポジウム、フォーラムを行ったとか、関係団体と意見交換をしたとか、行政や国、政治家も含めて意見交換をしたとか、企業との意見交換をしたといった、アウトプットはある程度1年後は出ると思います。それは、意思の表出をした先生方が自己申告で報告するということになっています。それで、そのフォローアップを事務局がしっかりとその先生方に1年後どうなりましたかということを連絡して、報告を提出してもらっています。さらに3年後にインパクトに関する状況確認があります。しかしながら、3年後になったときに、委員会・分科会等で主担当の先生が代わられるということがあります。そのときには、引き続きそのご本人や関係の先生に報告してもらうこととなります。例えば、メディアで継続的に話題になったとか、国の委員会等で議論が始まったとか、そういったことの情報のフォローアップを担当した研究者だけで行うのはかなり困難です。そうすると、やはり以前から話題にあがっている、中長期的なインパクトを調査する PhD クラスの常勤研究者が必要になってくると考えています。現状の体制で、できる限りのことは進めてゆきますが、これで十分だとは思っておりません。

また、理想的な広報に関しては、皆さんの頭の中にあると思いますが、現在の体制と予算の範囲内で、いかに効率的に何ができるかということの具体案をぜひ出していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○日比谷潤子副会長 質問希望票は今手元にはない状況ですが、どなたかほかに御意見がありましたら挙手でお願いします。オンラインの方も御意見がありましたらお願いいたします。

中村会員、お願いします。

○中村征樹会員 すみません。2回目になります。一部の中村です。

4のところの「産業界、NGO/NPOをはじめとする多様な団体、国民とのコミュニ

ケーション」とあるんですけれども、これを進めていくと多分行政だったりとかということも入ってくるのかなと思います。この中に「産業界からの会員・連携会員を核とした対話の促進」というところに「産業界／NPO等との対話を促進する」と、どういうふうにつながってくるのかなというのがちょっと見えにくかったかなということと、あと、国民との対話、コミュニケーションというのも、多分、一方向的に情報を発信するだけではなくてそのニーズを聞いていくとか、その声に耳を傾けるということも重要なかなと思いますので、特に国民とのコミュニケーションというのが、中だとほとんどリテラシーの向上とか情報発信ということにとどまっているのかなと思いましたので、国民との対話とか、コミュニケーションだったりとか、あと行政との対話とか、そういういろんなステークホルダーとの対話、コミュニケーションというところを項目の中に入れていただくか、何か文言としてもうちょっと明確に入ってくるというかなと思いました。

以上です。

○光石衛会長 ありがとうございます。

4のところは、産業界、NGOやNPOとそれから国民で、政府はどちらかということ1に関係してくるのではないかなという気がしますので、私としてはもし入れるとするとそちら側に入るという仕分けになっています。

○日比谷潤子副会長 どうぞ。

○狩野光伸会員 今、中村会員のおっしゃったことに関連して皆様にもしお願いができることがあるとしますと、サイエンスカフェを実施されたときに、会場に来てくださった方々が、どんなお話をされていて、何を期待しているかということがもし分かれば、ぜひ共有いただければというのが一つです。シンポジウムを開催されたときも同様です。もしすてきな意見があればぜひお伝えいただければと思います。

以上です。よろしく申し上げます。

○磯博康副会長 ありがとうございます。

サイエンスカフェやシンポジウムで聴衆の方がどういう反応があったかというのをぜひ報告していただく、聴衆の顔は普通出せませんので、後ろから写真を撮りますよということをお断りして写真を撮って、その内1枚か2枚の写真をホームページに載せる、イベントの内容について演者がどういった話をしたかについては今ホームページにアップしていますが、その他に、例えば何十人、何百人が集まって非常に盛会であったとか、聴衆からこういう質問、意見が出たといったことを、ホームページに出せる範囲ではアップしていければと思いますので、是非そういったフィードバックをいただければと思います。

○日比谷潤子副会長 それでは、岩井会員、そしてその後、第三部、森口会員でそろそろ時間ですので打ち切りたいと思います。

まず、岩井会員、お願いいたします。

○岩井紀子会員 先ほど市川会員が言われたことと、それから産業とかとの関係なんですけれども、つい最近も科学技術指標かな、総務省が出している報告で研究者の数自体は日本全国で女性研究者の数も増えていると。ただし、大学じゃなくて産業界のほうで増えている。昨日ちょっとある分科会の準備の中で御一緒していた情報系の女性の先生方とお話ししていたときに、修士・博士まで女性の研究者が来るんだけど、そこから大学に残って研究者にならずに産業界に行くと。ただし、大学の中で研究者が減っていくということは、育成者が減少して、その後、産業界に出ていく人たちも減る可能性もあるわけで、産業界のほうも大学での人の育成というのが重要だということ、産業界に、学術会議で議論しているようなことが自分たちとどう関わるのかなというようなことが伝わるような感じで議論ができたらいいなかなということを感じました。

以上です。

○光石衛会長 そのとおりですが、私も大学におりまして、博士の学位を取ったらどうだと言ってもう何十年も議論してなかなか変わらなく、世の中のマスは大きいと思った次第です。それに懲りることなく議論を続けたいと思います。

○岩井紀子会員 つまり、大学院生を取ってくれというよりも、その大学の中で育成するということがいかに重要かというようなことも産業界の人に目を向けてほしいという。大学が先細りすると産業界全体、日本の経済界自体にも影響するんだというような持っていく方はできないのかなという感じです。

○光石衛会長 ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 それでは、森口会員、お願いします。

○森口祐一会員 ありがとうございます。ちょっと前半部でしゃべり過ぎましたので、後半、静かにしようかなと思っておりましたが、今の産業界の辺り、4ポツ、5ポツの辺りと、それから7ポツについて少し各論を申し上げたいと思います。産業界という言葉ですと大規模な製造業というふうなイメージがあるかもしれませんが、5ポツの地方活性化、活性化という言葉がいいかどうか分かりませんが、地域づくりにおいても地場産業ですとか、NGO、NPO、あるいは団体、様々な主体の連携というのは非常に重要だと思いますけれども、どこへ行ってもなかなかリーダーがいなくて、地方公共団体もなかなかそうい

ったところで引っ張っていくのが難しいかなと思います。

そういう意味で、地方大学を中心とする学術の役割が大きいかなと思います。5ポツが若干地方大学だけで浮いているような感じもしなくはありませんし、それからもちろんこの中のニュアンスとしては地方大学がそういう役割を発揮していくとかと読めるかなと思います。もう少しそこを明確に書いてもいいんじゃないかなという感じがしました。

それから、7ポツについて、今の産業界で博士を取ってほしいみたいな話がありました。ここにも「博士の学位を有する職員の雇用」ということが書かれていますけども、事務局ということの中で、大学でいうといわゆるURAですね、リサーチ・アドミニストレータ的な事務部門と専門性のあるところの間をつなぐような人材というのが学術会議にとっても重要かと思えますし、私どもが今おります国立研究開発法人でそういったところの人材の重要性を非常に感じているところがございますので、そのような点もう少し明示的に書き込んでいただくこともあっていいかなと思いました。

以上2点です。

○光石衛会長 地域づくりにリーダーが必要ということはそのとおりだと思います。

7で事務局並びにアカデミア、企業の方もいらっしゃいますが、そこをつなぐ人というのは確かに必要ですが、ここそ予算がないとできない話で、現予算ですと苦しいというところも正直言っていると思います。

○森口祐一会員 よろしいですか。

ちょっとこれは非常に難しいところはあるかなと思います。再三、CSTI等の話がありましたけども、CSTP時代には結構各省、あるいは各省の研究機関、あるいは大学等からの出向でそういったところの事務局を支えていたような時代もあったと思いますので、場合によっては学術、あるいは学術会議のこういう危機的状況ということであれば、大学であるとか、研究機関からそういったところに対して人材を出していくということまで踏み込むということも考える余地はあるのではないかなというふうに思います。

○光石衛会長 事務局と相談しつつ進めたいと思います。ありがとうございます。

○日比谷潤子副会長 それでは、予定した時間になりましたので、ここで総会を終了ということにしたいと思います。会長に進行をお戻しします。

○光石衛会長 日比谷副会長、進行をしていただきましてありがとうございました。それから、会員の皆様におかれましては、2日間にわたって精力的に議論をいただきまして誠にありがとうございました。お礼を申し上げます。

昨日の午前に研究力強化について議論をしましたが、恐らく今度の秋以降もあのような

議論が、また別テーマかもしれませんが、やるほうがいいのではないかと私は思っています。こういうテーマについて議論すると良いのではないかと御意見がいろいろあるのではないかと思います。是非とも皆様から御意見をいただければと思います。

学術会議、もちろん国民、政府、学術団体、いろいろありますが、まずは皆さんがここに来て何か得をしたというようなことがなければなかなかうまくいかないのではないかと思いますので、こういう話を聞いたら得をしたと思うような話題、テーマがありましたら是非とも言っていただければと思います。

今後の予定ですが、今年の10月の総会は10月21日（月）から23日（水）までの3日間の開催を予定しています。重点的には最初の2日間かと思いますが、御予定いただければと思います。

それでは、最後に、事務局から連絡事項をお願いいたします。

○企画課長 事務局でございます。

この後の日程についてお知らせいたします。15時45分から幹事会を開催いたしますので、幹事会構成員の方はお時間になりましたら2階大会議室、またはオンラインにて御参加ください。

あと、ちょっと落とし物が二つほどございまして、いずれも受付で保管してありますが、一つはグレーの布マスクというもので講堂の第三部の1列目にあったということです。もう一つは紺色のボールペンということで、これはちょっと講堂のどこか分からないんですが講堂内にあったということで、いずれも受付で保管してありますので、お心当たりのある方は受付で受け取ってください。

あと、席上に残された資料は事務局にて破棄いたしますので、御入り用の場合はお持ち帰りくださいますようお願いいたします。

以上です。

【散会（午後3時35分）】